

令和6年度学校自己評価システムシート 国際学院中学校高等学校(通信制・大宮学習センター)

目指す学校像	建学の精神「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」を身に付けた人材の育成
--------	----------------------------------

重 点 目 標	1 社会性の向上 2 学習力の向上 3 募集力の向上
---------	----------------------------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A ほぼ達成(8割以上)
	B 概ね達成(6割以上)
	C 変化の兆し(4割以上)
	D 不十分(4割未満)

※学校評価実施日とは、学校評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校評価委員 5名
事務局(教職員) 8名

学 校 自 己 評 價					学 校 評 價		
年 度 目 標			年 度 評 價 (1 月 31 日 現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	①様々な学習歴を持った生徒が在籍期間中に大きな成長を遂げる姿を見ることができる。引き続き多様な生徒に対応すべく教員間で情報共有を行い、合理的な配慮についても考察していく必要がある。 ②個別対応の必要な場面がこれまで以上に増えてきている。本校の理念を教員、生徒全員が理解し、充実した学校生活の中で社会性を養える環境作りがより重要となる。	①自己効力感の向上 ②自己肯定感の向上	①様々な場面で円滑なコミュニケーションを誘導する。 ②生徒が相談しやすい雰囲気作りを心がける。 ③校外学習の充実を図る。 ④家庭、保健部、カウンセラーとの連携を密に進める。 ⑤生徒指導を要する場合、必ず複数教員で対応する。	①学校行事に生徒が主体的に関わることができたか。 ②生徒が自信を持って学習目標や進路目標を考えるようになっているか。 ③教職員全体での組織的な生徒対応ができたか。	①良好なコミュニケーションが多く見られた。 ②学校行事において委員会等で生徒が積極的に運営していた。 ③調理実習や栄養学、農業研修などで高大連携を行った。 ④生徒が自主的にSDGs活動に参加する場面があった。 ⑤レポート等を教員に質問する生徒が増えてきている。 ⑥まだ学習目標や進路目標が定まっていない生徒も多い。 ⑦生徒対応については、個別での情報交換が多かった。	B	学校行事全体の出席率が年々下がってきており、多様化してきている生徒の内面に配慮し、それぞれに対応できる委員会活動等、生徒間による組織作りを進めていく。 本校の理念に基づき多様な生徒に対応すべく、引き続き家庭の理解と連携を深めていく。 生徒の情報共有を定期的に行う必要がある。
2	①これまでのスクーリング日に加え、今年度からサブスクーリング日を設定し、授業時数の拡充を図った。 ②週4日制を敷いているが、スクーリング日以外の出席率がまだ低い。 ③自立した進路選択を行っている生徒と、そうでない生徒が二極化しており、卒業後のキャリアについてイメージを持たせる指導が必要となっている。	①学習基盤の定着 ②確かな進路選択	①授業時数を増やす。 ②レポート提出期日を厳守させる。 ③各自の進路実現に向けた計画的学習スタイルを確立させる。 ④②生徒が個別で質問をしやすい環境整備を進める。 ⑤②定期的な二者面談、必要に応じて三者面談を実施する。 ⑥外部講師による進路講演を実施する。	①期限内でのレポート提出と合格が出来ているか。 ②生徒各自の計画に基づいた学習習慣が身についているか。 ③生徒が自分の適正、資質にあつた進路選択はできているか。	①レポートの期限間近での提出や、再提出が増えている。 ②学習習慣が身についている生徒とそうでない生徒の二極化が進んでいる。 ③サブスクーリング日での出席状況が想定より低い。 ④個別指導を求める生徒への対応ができている。 ⑤第三学年26名在籍中、進学希望者22名(大学16名、専門学校6名)、その他4名	B	学習目標や進路目標を主体的に決定できる資質を養う必要がある。教員の個人指導を希望する生徒は増えたが、安易に解答を求める場面が見られ、自分で学びを深めていく学習に結び付けていく指導が必要である。 学習相談、進路相談について、より具体的な取り組み方や将来のイメージ像を模索できるよう示していく。
3	①今年度、教室の配置換えを行い、教室に隣接する形で第二職員室を設置した。同時に職員室・教室の改修工事も進めた。 ②パンフレット改定に伴いホームページを見直し精選した。教育活動報告の更新頻度をアップしていく。 ③教育活動を優先することが多く、対外的な募集活動が滞りがちになっている。	①教育環境整備 ②募集活動の強化	①教室の配置換えと第二職員室を設置する。 ②パンフレットを改定する。 ③ホームページの内容をパンフレット改定に合わせて精選する。 ④受験相談者に対応する。 ⑤訪問活動を分担する。	①環境整備が生徒の行動変容につながったか。 ②校外学習成果を対外的に広く公表できたか。 ③受験相談者が増加したか。	①教室の配置換えと第二職員室を設置したことでの、生徒からの質問や放課後校内に残り自習していく頻度が増えた。 ②教育活動について、文化祭来場者や受験相談者に示したが、広く周知できたとは言い難い。 ③週4日制となってから通信単独での学外募集活動が滞り、全日制との合同に頼っている。	B	引き続き生徒が過ごしやすい環境を模索した整備を継続していく。 教育活動成果の周知が限定的であり、全日制広報募集部と連携しながら対応していく。 通信単独の対外的な募集活動の頻度を上げていく。

実施日 令和7年2月10日	評価委員からの意見・要望・評価等
	<p>様々な学習歴をもつ生徒への理解が進み、相談しやすい環境づくりや校外学習の充実など、探究的な学びに向けた指導を実践している点が評価できる。また、高大連携やSDGs活動への主体的な参加、生徒からの質問増加などは、生徒の自己効力感・自己肯定感の向上に寄与している。</p> <p>一方で、進路・学習目標が定まらない生徒への支援や、生徒対応における情報共有が個別に偏っている点は課題である。学校行事の出席率低下についても、生徒の多様な背景に配慮した参加形態や役割設定の工夫が求められる。</p> <p>総じて、理念に基づいた多様な生徒への支援は着実に進んでおり、今後は家庭との連携強化と、生徒情報の定期的な共有体制の構築によって、組織的な生徒支援をより確かなものにしていくことが期待される。</p> <p>本年度はサブスクーリング日の新設など学習機会の拡充に努め、生徒が個別に質問しやすい環境や面談体制を整えるなど、個別最適な支援が進んでいる点は評価できる。一方で、出席率の伸び悩みやレポート提出の遅れ、学習習慣の二極化など、学習基盤の定着には依然課題が残る。</p> <p>また、進路選択の主体性にも差が見られ、早期から将来像を描ける指導の強化が必要である。個別指導を求める生徒が増えていることは良い傾向だが、今後はさらに自ら考える力を育む働きかけが求められる。</p> <p>総じて、個別支援は着実に進展しており、今後は主体的学習とキャリア形成を促すため、計画的学習支援と具体的な進路情報の提示をさらに充実させることが望まれる。</p> <p>本年度は、教室配置の見直しや第二職員室の設置、改修工事の実施により、生徒が質問や自習をしやすい環境が整い、生徒の学習行動に良い変化が見られた点は評価できる。</p> <p>一方で、パンフレット改定やホームページ精選を進めたものの、教育活動の成果が十分に対外発信されておらず、広報・募集活動の強化が課題である。また、通信単独での募集活動が停滞している現状については、全日制との連携をより深めつつ、通信としても独自に活動を展開できる体制づくりが求められる。</p> <p>今後は、教育活動の魅力を効果的に発信する方法を充実させるとともに、連携と独自活動の双方を強化し、受験相談者増につながる募集体制の構築が期待される。</p>